

扉の向こうへ

山梨発 ひきこもりを考える

熊本の支援センターを訪ねて 上

全国の自治体で続々と設置されている「ひきこもり地域支援センター」。ひきこもりに特化した窓口を設けることで支援体制の強化が期待されるが、山梨県内では開設の動きはない。一方、昨年、今年と相次いで支援センターを開設したのが熊本市と県が、ひきこもり当事者の社会復帰に向けた活動に取り組んでいる。施設の役割と意義を探ろうと、現地を訪ねた。

（木下淳香）

人口約70万、2012年 福祉センター「ウェルパル」に政令市になった熊本市。「くもと」のビルがある。

昨年10月、ビル3階に開設されたのが、熊本市ひきこ

もり支援センター「りん」とは別の場所にあるNPO

タより前に、2007年から市のサボステの運営を受託。多い時で年間延べ6千人が利用するサボステで長年支援に携わり、現在は



NPO法人「おーさあ」の職員として働く、ひきこもり経験者の赤星講平さん。同NPOはサボステと支援センターを連携させ、「支援の連続性」

＝熊本市内

開設半年で200人

「おーさあ」は支援センターとサボステの業務を兼務するなどし、利用者の不安を軽減させる工夫を

「おーさあ」はスタッフが支援センターとサボステの業務を兼務するなどし、利用者の不安を軽減させる工夫をしている。

出て行ける場所

支援センターとサボステを連携させ、息の長い効果的な支援を可能にする。「大事なのは支援の連続性」と語る伊津野さん。「サボステだけではひきこもりは解決しない。いきなり就労を

求める」ことのない施設があることで、当事者がまず支える側と結びつくことができる」と支援センターの存

息の長いサボート構築

援を行っている。

同市の赤星講平さん（32）

は約3年間のひきこもり生活を経て、昨年から同センターを運営するNPO法人「おーさあ」の職員として働いている。支援センター

仕事だ。

大学卒業後、25歳でアメリカの大学院に進学。思い切って渡米したものの、心身の調子を崩し、1年で帰国した。復学にも就労にも気持ちが向かず、実家にこ

るジレンマが、ひきこもり支援センターの必要性を導く根拠になった」と言う。

赤星さんは「就労が難しいひきこもりの相談をサボステで受けながら、引きも切らず寄せられたいたサボステ。定期的に開いていた会議には県と市、民間団体、ハローワークの担当者が参加している。13年度には高校や大学に出向き、意見を交換。若者

者が抱える問題と既存のサ

ービスを照合し、至った結

論が「学校もサボステも、現状ではどこもひきこもり

に手が届かない」。共通の

のはありがたい」

もるように。父親の知人の紹介をきっかけに、県の精

の14年度開設に向かった。

支援センターでは相談業

務のほか、週2日、ひきこ

もりの本人向けのプログラ

ムを用意。開設から半年で

約200人が訪れ、一人一

人に入った社会参加への道

をサポートしている。サボ

ステに移行した人や、2カ

所を併用している人も。「お

ーさあ」はスタッフが支援

センターとサボステの業務

を兼務するなどし、利用者

の不安を軽減させる工夫を

してい。

「おーさあ」は支援セン

ターだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステを連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大

事なのは支援の連続性」と

語る伊津野さん。「サボ

ステだけではひきこもりは解

決しない。いきなり就労を

求めることのない施設があ

ることで、当事者がまず支

える側と結びつくことがで

き」と支援センターの存

在意義を強調する。

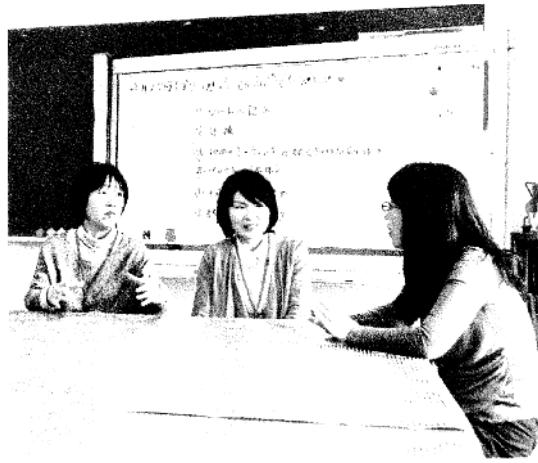
支援センターとサボステ

を連携させ、息の長い効果

的な支援を可能にする。「大</p

原の向こうへ

熊本の支援センターを訪ねて 下



熊本県のひきこもり地域支援センターの業務内容について
話し合うスタッフ
=熊本市東区

山梨発 ひきこもりを考える

「いよいよですね」。熊本には、支援のノウハウを備えた専門機関としてだけで祉センターの一室で、3人なく、住民サービスの現場の女性スタッフが話し合つていた。4月、同施設内にオープンしたばかりの「県ひきこもり地域支援センター」が開設した、専用ダイ

ヤルの利用開始が迫っていた。スムーズに対応できるよう、女性スタッフの入念な打ち合わせが続いた。同

熊本では昨年10月、県に先駆けて熊本市が支援センターを発足させていた。同市以外の市町村の住民を対象にする県の支援センターや次さん(59)は「相談はもち

ろん、当事者向けのアログラムを週2日開くなど、しつかり対応してきた。施設の名前より内容が伴つていればいいと考えていた。

県や市による支援センターの設置は、厚生労働省が

「いよいよですね」。熊本には、支援のノウハウを備えた専門機関としてだけで祉センターの一室で、3人なく、住民サービスの現場の女性スタッフが話し合つていた。4月、同施設内にオープンしたばかりの「県ひきこもり地域支援センター」が開設した、専用ダイ

ヤルの利用開始が迫っていた。スムーズに対応できるよう、女性スタッフの入念な打ち合わせが続いた。同

熊本では昨年10月、県に先駆けて熊本市が支援センターを発足させていた。同市以外の市町村の住民を対象にする県の支援センターや次さん(59)は「相談はもち

ろん、当事者向けのアログラムを週2日開くなど、しつかり対応してきた。施設の名前より内容が伴つていればいいと考えていた。

県や市による支援センターの設置は、厚生労働省が

「いよいよですね」。熊本には、支援のノウハウを備えた専門機関としてだけで祉センターの一室で、3人なく、住民サービスの現場の女性スタッフが話し合つていた。4月、同施設内にオープンしたばかりの「県ひきこもり地域支援センター」が開設した、専用ダイ

ヤルの利用開始が迫っていた。スムーズに対応できるよう、女性スタッフの入念な打ち合わせが続いた。同

熊本では昨年10月、県に先駆けて熊本市が支援センターを発足させていた。同市以外の市町村の住民を対象にする県の支援センターや次さん(59)は「相談はもち

地域に集いの場つくる

深刻さを認識

最初は、県の支援センターは、熊本以外の市町村の住民を対象にした相談や支援を行って地域の支援拠点となる「居場所」を設ける重要性とそのサポートの必要性を訴える。

県の支援センターは、熊本以外の市町村の住民を対象にした相談や支援を行って地域の支援拠点となる「居場所」を設ける。今後、担当者が各市町村に出向く、理解と協力を求めながら準備を進める。財源や人

員は、これまでひきこもりの当事者は推定で全国70万人。「市町村の支援活動を補助するため、県健福祉センターの業務を見直すなどして検出。専任スタッフとして嘱託職員2人を雇用した。

さまざまな問題につながっている現代。社会の姿を映す多くの問題につながっていると言える現象が「ひきこも

り」だ。三隅さんは言葉に力を込める。「市町村だけでは対応しきれない問題や、民間ではできないことに対するのが県の役割。担当者が各市町村に出向く、「ひきこもり」が抱える問題の深刻さを認識し、一緒に取り組んでいきたい」(木下澄香)

「県内初」「ひきこもり大学」